# PDI チェックツール(レベル2版)

インストール手順

# 目次

1.	はじ	こめに	1-1
	1.1	対象	1-1
	1.2	目的	1-1
	1.3	PDI チェックツールについて	1-1
2.	イン	ィストール・アンインストール	2-1
	2.1	実行環境	2-1
	2.2	推奨ハードスペック	2-1
	2.3	インストール	2-2
	2.3.	1 インストーラの実行	2-2
	2.3.	2 インストーラの流れと操作	2-3
	2.4	アンインストール	2-6
	2.4.	1 インストーラ(アンインストールモード)の実行	2-6
	2.4.	2 インストーラ(アンインストールモード)の流れと操作	2-6
3.		・トアップ環境	
	3.1	フォルダ・ファイル構成	3-1

#### 1. はじめに

#### 1.1 対象

本書は、PDIチェックツールの導入を行う担当者を対象としています。

#### 1.2 目的

本書の目的は、PDI チェックツールの導入を行う際に必要となる一連の作業の流れ(フロー)を説明し、PDI チェックツールの導入作業の手助けとなることです。

本書では、PDI チェックツールにおいて想定される標準的な設定の例を挙げて説明しています。

## 1.3 PDI チェックツールについて

PDIのチェックは、メディア形式、格納ファイル形式、DICOM インスタンスのタグ内 容と多岐にわたり、バリエーションの多い DICOM タグ内容検証などはチェック機能自 体単一化できません。

そのためチェックレベルを下表のように定め、当アプリは **PDI 二次チェック**までをサポートします。

No	チェックレベル	チェック内容
1	PDI 一次チェック	PDI のメディア形式(ISO9660)および
	(Level1 チェック)	DICOMDIR 内の画像ファイル情報と実際の画
		像ファイルの存在有無など、 <b>DICOM インスタン</b>
		スの内容を参照しない形でのチェック機能。
2	PDI 二次チェック	上記に加えて、患者・検査・画像シリーズなどの
	(Level2 チェック)	画像情報を表示、レポートする機能。
3	PDI 三次チェック	上記に加えて、DICOM インスタンスのタグ内容
	(Level3 チェック)	のチェックおよび内容をレポートする機能。

PDI チェックツールは、チェック対象の可搬媒体 (CD) が、「基本的な PDI の仕様を満たしているかどうか」について、確認を行う目的で作成されており、本チェックツールの通過が、任意のシステム (装置) 間における画像連携の成否を保証するものではありません。

最終的な画像連携の成否には、可搬媒体の仕様だけでなく、コンテンツである DICOM 関連ファイルについて、それぞれのシステム(装置)が採用している DICOM 規格の範囲や、その整合、実装している機能等が大きく関与します。

しかし、「CD を受け取った側」が遭遇する「全く読めずその理由も判らない」というトラブルを最低限減らすためにも、本チェックツールを通過した可搬媒体をやり取りする事が望ましいと考えられます。

## 2. インストール・アンインストール

## 2.1 実行環境

実行環境は、表 2-1 実行環境の通りです。

表 2-1 実行環境

OS	Microsoft Windows XP Professional 以降
言語環境	Microsoft .NET Framework 2.0

当アプリケーションは実行するにあたって管理者権限を必要とします。

Windows Xp で実行する場合、管理権限ユーザで OS ログインした環境で実行してください。 Windows Vista 以降の場合、管理者権限に昇格する旨のダイアログが表示されますので、指示に従い管理者への昇格または管理者ユーザのログインを行ってください。

# 2.2 推奨ハードスペック

推奨ハードスペックは、表 2-2 の通りです。

表 2-2 推奨ハードスペック

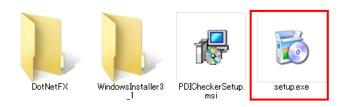
CPU	OS が推奨する動作スペックに準ずる
メモリ	OS が推奨する動作スペックに準ずる。
	(Windows XP:256 MB 以上の実装メモリ)
ハードディスク	システムドライブに 900 MB 以上の空き容量が必要
プリンター	CD レーベルを印刷する場合は、CD レーベルが印刷可能な
	プリンターが必要。

## 2.3 インストール

インストーラを実行することによって実行環境をセットアップします。

操作は**管理者権限のあるユーザ**で行ってください。

# 2.3.1 インストーラの実行

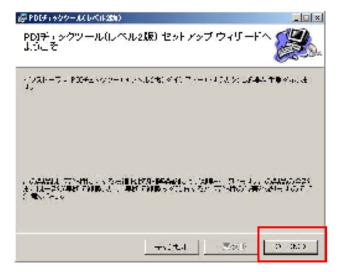


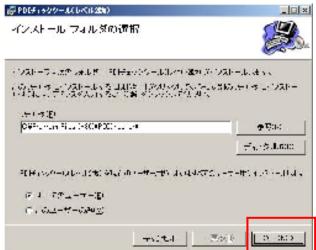
setup.exe を実行します。

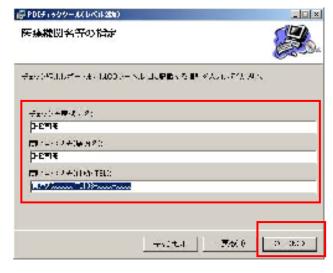
この時、当アプリに必要なコンポーネント(.Net Framework2.0)がインストールされていない 場合は コンポーネントのインストーラが先に実行されますので内容に沿ってインストール を行ってください。

## 2.3.2 インストーラの流れと操作

以下のインストーラの流れに沿って操作してください。

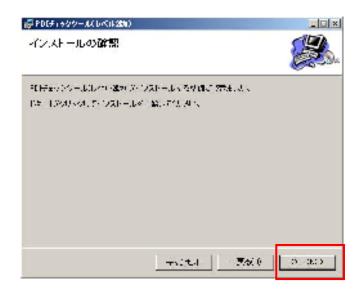






設定は後で修正することができますので 入力しなくても続行できます。

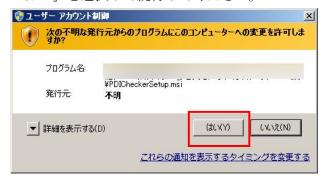
(修正方法は別途 操作説明書を参照してください)





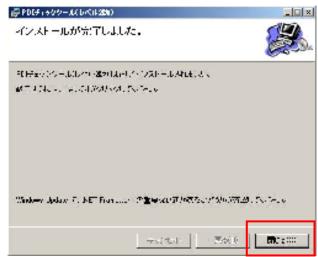
Windows Vista、Windows 7 の場合、このタイミングで下図のような 管理者権限に昇格させる確認ダイアログで表示されます。

「はい」を選択して続行してください。



OS、環境によって表示内容が異なりますので参考程度にとらえてください。





インストールが完了するとデスクトップに「PDI チェックツール」の ショートカットが作成されます。



チェックツールの実行はこのショートカットより実行してください。

#### 2.4 アンインストール

インストーラ (アンインストールモード) を実行することによってアンインストールを行います。

操作は管理者権限のあるユーザで行ってください。

#### 2.4.1 インストーラ (アンインストールモード) の実行

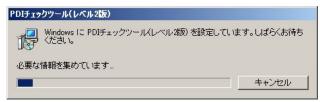
「インストール時と同様に Setup.exe を実行する」 、または、「プログラムスタートメニュー>コントロールパネル>プログラムのアンインストール」(Windows XP はプログラムの追加と削除)を選択してインストーラを実行します。



PDIチェックツールを選択し、アンインストールをクリックしてください。

#### 2.4.2 インストーラ (アンインストールモード) の流れと操作

以下のインストーラの流れに沿って操作してください。



途中、インストール時と同様に

「Windows Vista、Windows 7 の場合に管理者権限に昇格させる」 確認ダイアログで表示されますので「はい」を選択して続行してください。

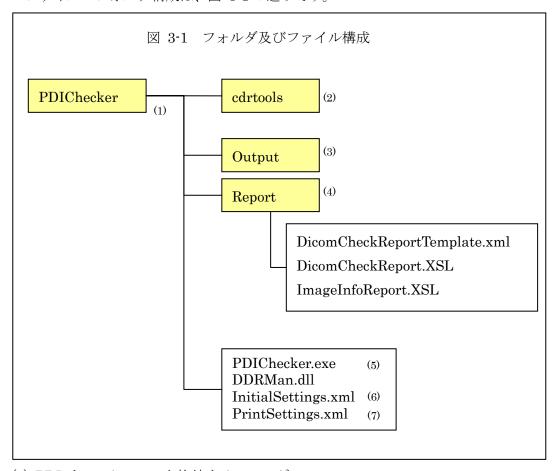
アンインストール処理中の画面が閉じましたら、アンインストールは完了です。

## 3. セットアップ環境

通常、利用者は実行環境の構造を意識する必要はありません。(参考程度に)

#### 3.1 フォルダ・ファイル構成

ファイル・フォルダ構成は、図 3-1 の通りです。



- (1) PDI チェックツールを格納するフォルダ
- (2) CD メディアチェック 関連実行モジュールフォルダ
- (3) 結果レポート出力フォルダ
- (4) 結果レポートテンプレート関連フォルダ
- (5) PDI チェックツールの実行ファイル
- (6) PDI チェックツールの初期環境設定ファイル
- (7) PDI チェックツールのプリンター環境設定ファイル